

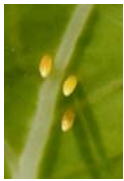
牛久：学校周辺に見る自然

第18号 牛久二小、ひたち野うしく小

2010年6月9日発行

<モンシロチョウの観察(再掲)>

3年生でモンシロチョウの育ち方を学習しました。昨年「中根小の自然」に掲載したのですが、確認し復習しましょう。なお、卵から羽化までは牛久二小で飼育していたものです。今年は二小だけでなく、ひたち野うしく小にも幼虫つきキャベツを分けていただきました。ありがとうございました。



①卵：高さ1 mm くらい。うすい黄色からオレンジ色っぽくかわっていく。

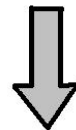
②1回皮を脱いだよう虫：体長5 mm くらい。生まれたてのは2 mm くらいで、脱皮するたびにどんどん大きくなる。

③4回皮を脱いだ幼虫：体長3 cm くらい。体の横の丸いもようは、気門(きもん)という息をするための穴。あしは8対に見えるが、本物のあしは3対。

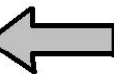


⑦よく似たスジグロシロチョウの交尾：こうして次代の子孫となる卵をつくる。

④さなぎ：じっとしているように見えるが、中では幼虫の体をどろどろにし、はねや触角など成虫の体を作り直している。



⑥自由に飛びまわるチョウ：いろいろな花のみつを吸う。



⑤羽化したてのチョウとさなぎのカラ：背中と首のところが割れて羽化する。血管が血圧で押されて伸びだし、くしゃくしゃのはねを広げる。血管は固まってはねの脈となる。



たまご→よう虫→さなぎ→せい虫
を、春から秋にかけて5, 6世代くり返す。

【理科支援員 宮内】